

応援する気持

年長組の子どもたちが、職員室の東側の校庭でリレーをしていました。ちょうど、小学校は給食の準備の時間でした。青チームも白チームも次の走者へバトンを渡すまであきらめず、自分の力を発揮して走っていました。そしていよいよアンカー。白チームがリードし、まさに最終ゴールの先生のところまで走ってきた時、青チームが粘り強く走り抜き、なんと青チームが一等になりました。

給食の準備を終えて、幼稚園のリレーを見ていた1年生の二人。最後の最後に青チームの走者が抜き走った時、小さな声で「あ、青チームが、勝った」と友達の肩をたたきながら意外な結果に驚きました。そしてすぐに今度は大きな声で「白チーム、今度は勝つで！大丈夫や！」「頑張れー」と年長児たちのほうに叫びました。最終コーナーでリレーを見守り、年長児の一人一人に声をかけていた私はその1年生の二人の様子を目の当たりに見ました。

リレーを終えた年長児たちの所に駆け寄っていくと、白チームの子どもの二人が「負けた」と悔し涙でうつむいていました。そこで私は「1年生がみんなのリレーを見て『白チーム、今度は勝つで！大丈夫』って応援してくれているよ」と、リレーを応援してくれている様子を話しました。担任もその話を聞いて「みんなのこと、応援してくれているんだよ。よかったね」と。悔し涙の子どもたちは、それを聞いて、気持ちを整理し、顔をあげました。「みんなで応援してくれた1年生のところへ行ってみよう」と担任。白チームの子どもも青チームの子どもも校庭に面した1年生の教室に向かいました。「応援してくれてたんだよね。ありがとう」という担任の声に促されるかのように年長児たちは「ありがとう」と声を揃えて言います。すると「お昼休みに一緒にリレーしよう！」と1年生。「うん。待ってる」と年長児たち。その後、給食を終えた1年生が大勢、幼稚園のトラックにやって来て年長児と入り交じり、リレーを始めました。

小学校の3年生が体育の授業でリレーをしていた時です。年少児が数人その様子を見ていました。すると、3年生に向かって「がんばれー」と応援の声。そして、その声がだんだん広がっていきました。

年長児の最後まであきらめないうで全力を出す様子を見て、その頑張りに感動し、また、その結果の意外性からも、どちらのチームも一所懸命だったことを感じ、小さな声を発した1年生でした。そして、負けたチームに次は勝つよ、頑張って！とエールを送ったのです。1年生の心を動かした年長児たちの真剣さ、そして負けたチームを応援したくなった1年生の思い。また、小学生がすごいスピードで走っている様子を見て、思わず「がんばれー」と応援の言葉を出した年少児。それに続いて声を出した周りの年少児たち。

こんな時は応援しよう。応援の言葉を掛けようという誰かの言葉によつての応援でなく、1年生も年少児も自分たちの心で感じたことから応援したくなる気持ちの現れだったと思います。

思わず応援したくなる、心が動いて応援の声が出てくるという原動力となる走者の一所懸命さ、必死で真剣な姿も素晴らしいものです。

頑張っていることを応援してもらつと、そこからまた力を得て次の取組の意欲につながります。いろいろと人が支え合い、前に進む力となっていることに感動を覚えた私でした。